

## Title: 「Carry that weight」



野尻 浩行  
栃木市出身の24歳。  
後悔のない旅にしたいです。  
そして丈夫な体になって帰ってきたいです。

## ● 最近のエントリー

- ☑ [しても、しきれない。](#)  
(2010.07.27)
- ☑ [今更ですが、ネパールのカトマンズ](#)  
(2010.07.26)
- ☑ [今更ですが、インドのデリー](#)  
(2010.07.26)

## ● アーカイブ

- ☑ [2011年01月](#)
- ☑ [2010年09月](#)
- ☑ [2010年07月](#)
- ☑ [2010年06月](#)
- ☑ [2010年05月](#)
- ☑ [2010年04月](#)
- ☑ [2010年03月](#)

## ● 投稿カレンダー

## ● カテゴリー一覧

## ● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校  
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

「Carry that weight」 &gt; 2010年07月 アーカイブ

10.07.27

| **しても、しきれない。**[Tweet](#)[Check](#)

ネパールからラサを経由して、中国は成都に着いたのが、7月13日。

カトマンズの空港にて、引率熊倉局長とお別れ。  
ベトナム、カンボジアと散々体調を崩したばかりは、熊倉局長のなかで体の弱い子になってしまいましたが、局長にはその都度お世話になったので返す言葉もありません。

ちゃんとお礼をしなければならぬのですが、空港でのゴクゴクでちゃんとお礼を言う事ができなかったのがいまでも心残りです。

いままでありがとうございました。日本でお会いできたら、改めて。

成都の双流国際空港にて、NKC佐藤さんと台湾ぶりの再会。  
久しぶりの佐藤さんは、鮮やかなブルーのポロシャツで、懐かしさを感じずにはいられませんでした。  
しかし、そのときBaggage Claimから預け荷物が全く出てこないアクシデントの最中とあって、あたふた。

どうやら、カトマンズから乗ってきた人とラサから乗ってきた人と、荷物が別々のベルトコンベアで流れていたようで、荷物は無事回収できましたが、佐藤さんがいなかったらどうなっていたことか。早速お世話になってしまいました。

成都は、これまでの中国のイメージを大きく覆し、清潔で、洗練された街でした。  
ほとんど日本との違いを見出すことができない。あるとすれば、漢字とバンダぐらいでしょうか。

成都での2日間はあっという間に過ぎ去って、ラサへ飛ぶためにまた双流空港へと向かう日が来ました。そして、この日は引率齊藤先生が日本に帰国する日でした。

マレーシアのスクーリング準備期間からインド、ネパールを経て2ヶ月でしたが、あっという間に過ぎ去ってしまった。

齊藤先生に助けられたことは数え切れないし、頑張っていた部分があったから、いざお別れとなると、もう明日にでも帰ってきてほしい気持ちでしたが、日本に残されたお仕事が齊藤先生の帰りを待っているの、あきらめなければなりません。

齊藤さん、おつかれさまでした。この2ヶ月ありがとうございました！

カテゴリ:

post by 野尻 浩行 | 日時: 2010.07.27 | [パーマリンク](#) | [コメント \(4\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

「Carry that weight」 &gt; 2010年07月 アーカイブ

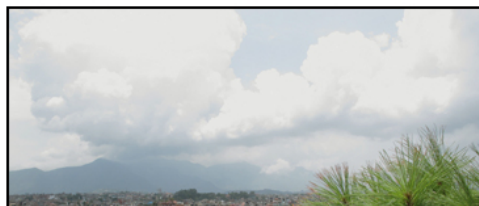
10.07.26

| **今更ですが、ネパールのカトマンズ**[Tweet](#)[Check](#)

7月1日デリーからネパールへと飛びました。

ネパール写真展を前にして、FW5期生一行はカトマンズで東の間の休息を楽しみます。

デリーのホコリっぽい空気や、40℃を超える気温や、あのインド人の後にやってきたカトマンズでは、高地の澄んだ空気に、人のおおらかに、涼しい気候にいやされます。





空港からホテルに至るまでのバスのなか、そういったことでいちいち盛り上がれるのは、みんなインドでたいへんな思いをしたからでしょう。ぼく自身、バスの窓がきれいだったり、家屋の屋根に苔が生えているのを見てなぜかうれしくなりました。

そんな癒しの地カトマンズですが、最も癒し力を持っていたのはこの犬でしょう。



インドで犬というと、唸りながら追いかけてくる、病気を持って、いつも飢えていると、危なっかしいイメージでした。

そこへ、この人懐っこさ。



なんということでしょう。

カトマンズ滞在中に、引率熊倉局長に日本食をごちそうさせていただきました。

海外にある日本料理というと、オリジナルと微妙に違うことが多いですが、とてもおいしくいただきました。特におそばは日本でもあまり食べられないくらいおいしかったです。

これからカトマンズを訪れる方ぜひお試しください！

さて、ネパールに癒されたメンバーはそれぞれ写真展グループごとに各地へ散りました。

ALL BLUE班はガイドのアショカさんにカトマンズからドリケルという村までの車をチャーターしていただき、写真展開催地へと向かいました。アショカさん ありがとうございました。

ALL BLUE班の写真展については、準備編(濱口)、写真展編初日、2日目(岡田)をご覧下さい。写真展3日目は後ほど野尻よりアップさせていただきます。

カテゴリ：

post by 野尻 浩行 | 日時: 2010.07.26 | [パーマリンク](#) | [コメント \(1\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[「Carry that weight」 > 2010年07月 アーカイブ](#)

## 今更ですが、インドのデリー

[Tweet](#)

[Check](#)

ブログ上ではインドで時が止まっていますが、しっかり旅は進行しています。

インドを終え、ネパールの写真展をやったこと終え、成都からラサ入って高山病に苦しめ、いまは中国撮影期間。みんなそれぞれのテーマに従って、慣れたように中国各地に散っています。

時は戻ってインドの再集合地デリーへ。

デリーでは、モノクロ組である岡田、谷本、野尻のインド撮影分のフィルムをKLへと送るために郵便局に行きました。郵便局といえば、必ずといっていいほど現れるのが穂積氏。日本へハガキを送るために一緒に郵便局へ向かいました。

インドのオートリキシャに4人はまず普通に座れません。なので、ぼくは後部座席という名の荷物置き場7に乗ります。これがその後部座席からの写真。



ちょっと怖いですね。お尻がものすごく熱くなる。座布団持参すればよかった。

郵便局近くの売店のおちゃんから段ボールとガムテープを買い、いざ梱包。そして発送というところで、KLの住所が分からない事に一同気付く。

携帯電話で、引率の齊藤先生と遠藤に電話して住所を教えてもらうことで事なきを得るも、そこはインド。

パソコンはほとんど使わず、恐らく何十年も前からこうやってるんだらうなあと思わせる手続きで結局荷物は発送されました。

本当にこんなんでKLに着くのかな？と一抹の不安を抱えながら、それをあまり考えないようにして一行は郵便局を去るのでした。



それから約半月後、ラサ滞在中にKLの志村さんからメールが届き、無事(段ボールはボロボロになってたようですが)フィルムが到着したとのこと。大家さん、志村さん、ウォンさんお世話になりました。ありがとうございました。

そして、デリーでは穂積氏の21歳の誕生日をみんなで祝いました。プレゼントにシヴァ神のTシャツとキャミソールをもらった穂積氏。

5期生FWメンバーはほとんど高卒上がりのメンバーなので、1年生のころは18歳。

そんな彼らがすでに21歳なのだから時が経つのは本当に早いものです。

自分にも同じスピードで歳が重ねられているはずが、まったく大人になれていないのは気のせい？



時期は異なり、ネパールで撮られた写真。胸でグラスンをかけているのは、ネパールでお世話になったガイドさんのアショカさん



カトマンズを巡遊と駆けるシヴァ神

蛇足。このころから栄養ドリンクが自分のなかで大ブームします。

1日2本は当たり前になってきました。本当はあんまり良くないんだろうけど、2本飲むと次の日の目覚めがめちゃくちゃ良くなります。ここからネパールの写真展まで怒濤の栄養ドリンクラッシュです。

ぼくたちのグループ写真展ALL BLUEについては、濱口、岡田のブログにて。

カテゴリ：

post by 野尻 浩行 | 日時: 2010.07.26 | [パーマリンク](#) | [コメント \(1\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)